



日本遺産認定

四〇〇年の歴史の扉を開ける旅

く石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井く



祝 日本遺産認定!

400年の歴史の扉を開ける旅

福井県・福井市
勝山市で申請

～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～

「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。



ストーリー

越前・福井では、中世期に地方に生まれ、大量の石を用いて計画的につくられた都市が今も独特の空間を醸し出しています。また、近世期の城下町では、風景に溶け込んだ美しい青色の石が天候によって街並みの色合いを変化させ、自然の力が大地を階段状につくり上げた街の中心部には石の壁が続きます。

様々な形に姿を変えて時代を越えてきた石が私たちを出迎える越前・福井は、日本人と石との共生の歴史や屈指の石づくり文化を体感させてくれる地です。

勝山市

主な構成文化財

福井市



はくさんへいせんじきゅうけいだい
白山平泉寺旧境内

日本最大級の宗教都市遺跡。全国的に極めて珍しい、中世の石垣や石畳道が発掘されている。「石のまちづくり」のルーツであり、その景観や技術は一乗谷へと引き継がれた。



きゅうげんじょういんていえん
旧玄成院庭園

室町時代末期に作庭された北陸地方に現存する最古の庭園と伝わる。正面上段の築山には立石・伏石による石組が施され、築山前面に配置された枯山には枯滝とみられる滝石組や大きな自然石の出島などがある。



しちりかべ
七里壁

勝山城下町を横断する九頭竜川の河岸段丘。高さ5～6mの崖を覆う壮観な石垣がある。江戸時代、崖上には勝山城や武家屋敷、崖下には町家や寺院があり、身分による境界となっていた。



きゅうかつやまじょうか まちなみけいかん
旧勝山城下の街並み景観

七里壁の崖下にある勝山城下町には、現在も重厚な造りの商家が残る。平泉寺が全山焼亡した後大きく発展し、この地域の新しい中心地となった。



いちじょうだにあさくら し い せ き
一乗谷朝倉氏遺跡

計画的につくられた町全体が良好に残る戦国期最大の遺跡。町屋や武家屋敷など、発掘されたままの石垣や礎石を生かして当時を再現した復原町並があり、戦国時代の城下町の実像を体感することができる。



ようこうかんでいえん
養浩館庭園

江戸時代「御泉水屋敷」と呼ばれた福井藩松平家の別邸の廻遊式林泉庭園。空間構成や石橋、景石等が江戸時代の大名庭園の様子をよく伝えている。



ふくいじょうし
福井城址

初代・福井藩主・結城秀康が築城した福井城は本丸を中心に四重の堀に囲まれていた。笏谷石で造られた本丸の石垣と堀が今も良好に今も残る。



しゃくだにいし
笏谷石

足羽山山麓部を中心に産出し採掘された火山礫凝灰岩。水に濡れると深い青色に変化するため「青石」とも呼ばれる、福井の名石。約1,500年前に継体天皇が発見し、採掘を指示したという言い伝えが残る。